

JA 4215（ビーチクラフト式 A 36 型） 航空事故調査の進捗状況

1 事故の概要

(1) 発生年月日 平成 23 年 7 月 28 日

(2) 発生場所

北海道かさいぐんめむろちようつるぎさん河西郡芽室町剣山山中



(写真 1 事故機と同型機)

(3) 概要

独立行政法人航空大学校所属ビーチクラフト式 A 36 型 JA 4215 は、平成 23 年 7 月 28 日（木）、9 時 11 分帯広空港を離陸し、9 時 14 分管制機関へ訓練のため訓練試験空域に入域する旨の連絡を行った後、9 時 28 分ころ救難信号を発信し消息を絶っていた。捜索の結果、北海道河西郡芽室町剣山山中に墜落しているのが発見された。

(4) 被害の状況

当該機には 4 名の搭乗者がいたが、3 名が死亡、1 名が火傷を負った。当該機は大破した。

2 調査状況

7 月 28 日（木）から 8 月 3 日（水）の間（6 日間）、航空事故調査官 2 名を現場付近に派遣して初動の調査を実施した。うち、5 日間は、被害者への情報提供の担当官 2 名も派遣した。

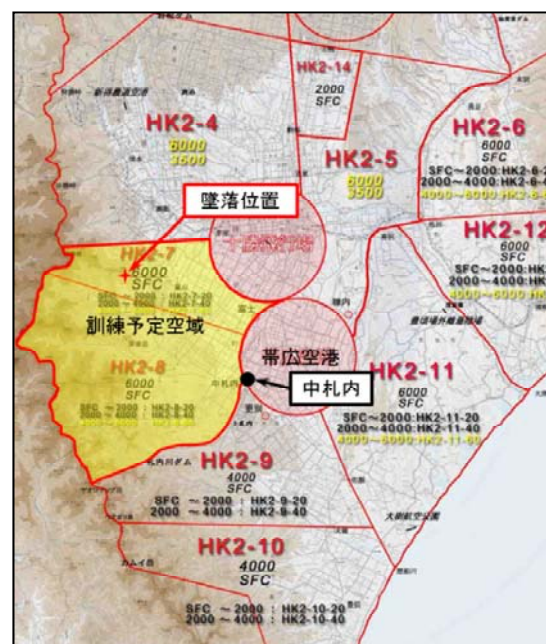
調査内容は、次のとおり。

(1) 口述聴取

- ① 生存者（訓練学生）
- ② 目撃者
- ③ 事故機を点検した整備士
- ④ 管制官
- ⑤ 航空大学校の運航支援者
- ⑥ 航空大学校の教官

(2) 現場調査

- ① 墜落現場
- ② 航空大学校の同型機
- ③ 航空大学校の運航管理塔



(図 訓練予定空域)

3 判明事項

① 座席配置（教官 2 名、訓練学生 2 名、合計 4 名）

訓練学生-前席左側、指導する教官（機長）-前席右側、オブザーバー教官-後席左側、訓練学生-後席右側だったようだ。前席右側の機長は機外で発見され、後席の 2 名は機内で発見された。

② 飛行状況

帯広空港出張所に通報された事故機の飛行計画の概要は、次のとおりだった。

飛行方式：有視界飛行方式、出発地：帯広空港、移動開始時刻：09時00分、巡航速度：140kt、巡航高度：VFR、経路：中札内（目視位置通報点）～HK2-7及びHK2-8（訓練/試験空域）～中札内、目的地：帯広空港、記事：札幌ACCに128.35Mhzで通報、同空域において高度2,000ft、4,000ft、6,000ftで空中操作、所要時間：1時間45分、飛行目的：訓練、持久時間で表された燃料搭載量：4時間30分、搭乗者数：4名

事故機は、午前9時11分帯広空港を離陸し、事故が起きたのは、基本計器飛行（BIF）の訓練中だったようだ。これは、訓練生がフードを付けて計器だけを見ながら教官の指示される諸元（高度、速度、針路、上昇、降下、旋回等）で飛行する訓練である。（図 訓練予定空域、写真2 計器飛行を行う訓練生の模擬参照）

③ 生存者の容体；

3度の火傷を負って入院中。

④ 残骸の散乱状況；

両翼は、切断され左翼は木の上、右翼は地上にあった。胴体はそこから離れた位置にあり、客室部分は骨組みを残し激しく焼損していた。（写真3 残骸：胴体及び写真4 残骸：エンジン参照）

⑤ 火災の状況；

広範囲の地上の笹が茶色に変色。胴体は、キャビンの燃え方がエンジン部分よりも激しい。尾翼付近に煤は付着しているがほとんど燃えていない。

⑥ 墜落直前の飛行方向；

木々の折れ方から北西方向、仰角約15°（写真5 木の切断状況（延長線上から撮影）参照）

⑦ 整備記録上、機体及びエンジンに異常はなかった。

⑧ 搭乗者の資格及び勤務状況に異常はなかった。

⑨ 気象；

札幌管区気象台帯広空港出張所による帯広空港の9時の定時観測では、風は弱く付近に雲はなく訓練に支障はない天候だった。墜落位置付近の山岳地帯には雲底約3,100ftの積雲系の雲が散在し、剣山山頂はその雲に覆われ見えない状態だったとの情報もある。

4 今後の主な調査予定

- 残骸移動時及び移動後の調査
- 生存している訓練学生等からの口述
- 気象情報、管制交信記録、レーダー航跡記録等の入手

写真2 計器飛行を行う訓練生の模擬



写真3 残骸：胴体



写真4 残骸：エンジン



写真5 木の切断状況（延長線上から撮影）

